

No. 67
令和7年3月

～育てよう！ 強く明るい えひめの子～

青少年育成だより



令和6年度「愛媛の未来をひらく少年の主張大会」(令和6年9月7日)

毎月第3日曜日は「家庭の日」です。

愛媛県青少年育成協議会・愛媛県

〒790-8570 松山市一番町4丁目4-2(子育て支援課)

TEL 089-912-2448

青少年の非行・被害防止県民大会の開催

愛媛県では青少年の非行・被害を防止し、健全育成を図るため、毎年7月を「青少年の非行・被害防止強調月間」と定め、県民総ぐるみの活動を推進しています。

同強化月間の取組として、県、県青少年育成協議会、県教育委員会及び県警察本部の共催により、「青少年の非行・被害防止県民大会」を愛媛県生涯学習センター県民小劇場（松山市上野町）で開催しました。（7月24日（水））

大会では、青少年の健全育成について様々な社会貢献活動等で功績のあった団体、個人に対する知事表彰及び会長感謝状の贈呈や当協議会長による「大会宣言」などの式典、愛媛大学大学院医学系研究科 児童精神医学講座 准教授 河邊憲太郎先生を講師にお招きして講演を行いました。

【大会日程】

(1) 式典

主催者あいさつ

愛媛県知事（代読）愛媛県少子化対策・女性活躍統括部長 池田 和

顕彰

優良青少年団体及び青少年知事表彰

青少年育成活動功労者等に対する会長感謝状

来賓祝辞

愛媛県議会 環境保健福祉委員長 川本 健太

大会宣言

愛媛県青少年育成協議会 会長 野間 逸元

(2) 講演

演題

ネット・ゲーム依存が子どものころに及ぼす影響について

講師

愛媛大学大学院医学系研究科 児童精神医学講座 准教授 河邊 憲太郎 先生

【大会の様子】



【優良青少年団体及び青少年知事表彰受賞者】

●個人の部

氏 名	団体名（所在地）	功 績 の 概 要
二宮 莉穂	双海町 ジュニアリーダー会 会長 (伊予市)	「双海町こども教室」の運営補助、プログラムの企画立案、実施などをメインにボランティア活動を実施しており、地域イベントや高齢者福祉施設のイベントの手伝いなど、積極的に活動の幅を広げ、個々の成長や地域貢献を目的に活動している。 会長就任後は、団体を引っ張っていく立場となり、中学生から大学生まで異年齢の会員をまとめ、様々なアイデアを出すなど活動の幅を広げている。地域教育実践交流集会や伊予市生涯学習推進大会、日本ボランティア学習学会等、県内外の集会で青少年育成活動を通じた地域活性化の実践事例発表に熱心に取り組み、地域内外から高い評価を受けている。

●団体の部

団体名（所在地）	代 表 者	功 績 の 概 要
愛媛県立 三崎高等学校 みさこう郷土芸能 (伊方町)	久保田 幸誠	平成 29 年度に有志団体として発足。団体規模を拡大し、はなはな祭り、三崎高校文化祭等で太鼓演奏や郷土芸能を披露している。 「地域と共に高校生も伝統芸能を未来へつなぐ」をコンセプトに、令和3年度から三崎地区の秋祭りで継承されている五ツ鹿・浦安の舞・唐獅子を地域の協力を得ながら継承する活動を開始した。5年度からは、五ツ鹿の衣装や獅子の道具制作の継承も行われるようになり、伝統芸能の継承に貢献している。
愛媛県立 三島高等学校 インターアクト部 (四国中央市)	受川 凜夏	在住外国人や市内の子どもたちを対象とする市主催の国際交流イベントにおいて、運営の補助を精力的に努めるなど、国際理解の促進と国際交流への関心を高める契機づくりの一端を担っている。また、例年、寒川海水浴場の美化活動など、環境保全活動を行う他、SDGs に関するプレゼンやハワイ・マウイ島山火事の校内募金の実施など、常に新たな国際課題に着目し、幅広い活動を展開している。

内子こども狂言くらぶ (内子町)	城戸 景道	伝統芸能である狂言の普及と保存継承を目的とし、幅広い年代の児童・生徒が自分たちを表現する場として活動している。 伝統文化と伝統工芸がコラボレーションし、地元の職人が地元の特産品で制作した和紙の着物を身に付け演じることで地域文化の向上に貢献している。 「内子こども狂言記」製作に伴い第1回愛媛国際映画祭レッドカーペットに参加、東京オリンピック文化プログラムとして狂言公演へ参加する等、伝統文化普及の一躍を担っている。
松山学院高等学校 福祉科 (松山市)	吉田 慎吾	福祉施設やグループホーム等における介助ボランティアへ参加するとともに、施設の行事には移動介助や運営補助スタッフとして参加し、地域の方々との意見交換などを通して地域の活性化に貢献している。 令和4年度からは、認知症の方をサポートする取り組みであるチームオレンジとして、公民館やデイサービスで開催される認知症カフェに参加し、認知症の方やご家族とともに体操や料理をすることで、リフレッシュや意識向上のサポートをしている。
ほりえまちづくり 中学生ボランティア部 (松山市)	吉田 梓乃	松山市立内宮中学校の生徒の「ふるさとのために役立つことをしたい」という声から、堀江地区まちづくりコミュニティ会議が運営する部活動として令和元年5月に「ほりえまちづくり中学生ボランティア部」が発足。 中学生たちは、土日などの休日の早朝から、地域清掃や募金活動、地域行事の運営補助等、まちづくりボランティア活動を行っている。メンバーは「中学生だからこそできる活動がある!」と生き生きと活動しており、堀江地区のまちづくりに元気と活気を与えている。



【青少年育成活動功労者等に対する会長感謝状受賞者】

●青少年育成活動 団体の部

団体名（所在地）	代 表 者	功 績 の 概 要
飯岡青少年健全育成 協議会 (松山市)	矢野 武彦	青少年の地域伝統行事やスポーツ活動への参加を推進し、地域社会の力を活かして地域伝統行事の継承することで家庭や地域の在り方を考える活動を行っている。 ・「もみまきからとうど祭り」まで（5月～翌年の2月）5年生「総合的な学習の時間」において1年間通して体験活動の実施 ・チューリップ球根植えから球根掘りまで（3～4年生） ・こいのぼり設置（4月） ・愛護班連絡協議会主催のサマーキャンプの協力（8月） ・夏休み親子地区会の実施（全校、全地区対象に：7月夏休み） ・太鼓台とのふれあい集会（全校：10月） ・学習発表会において青少年健全育成標語の作品募集及び展示（11月） ・クリスマスイルミネーション設置（12月） ・青少年育成に関する各種研修会に参加 ・研修視察（高知県等）



●青少年育成活動 個人の部

氏 名	団体名（所在地）	功 績 の 概 要
曾我部 卓也	新居浜市 少年補導委員協議会 金子支部 支部長 (新居浜市)	月1回、支部員全員参加による支部定例会を開催し、青少年に関する情報交換や意見交換を行い、活動方針等を適宜立て、状況に応じた活動をしている。 月1回以上、支部の男性班の活動として19時から21時まで支部内の夜間街頭補導を行い、非行・被害行為の発見と防止に努めている。 新居浜市少年補導委員協議会主催の総会・研修大会に積極的に参加している。 金子支部では、支部長として支部員を束ね、支部の活動が円滑に進むように良くサポートしており重要な役割を果たしている。
小野 巧	新居浜市 少年補導委員協議会 角野支部 事務局長 (新居浜市)	月1回、支部員全員参加による支部定例会を開催し、青少年に関する情報交換や意見交換を行い、活動方針等を適宜立て、状況に応じた活動をしている。 月1回以上、支部の男性班の活動として19時から21時まで支部内の夜間街頭補導を行い、非行・被害行為の発見と防止に努めている。 新居浜市少年補導委員協議会主催の総会・研修大会に積極的に参加している。 補導委員歴22年という長きにわたって活動し、地域の補導委員にも信頼度も高く、経験を活かし新居浜市補導委員協議会活動の一層の発展、充実に努めている。
河端 孝美	新居浜市 少年補導委員協議会 中萩支部 支部長 (新居浜市)	月1回、支部員全員参加による支部定例会を開催し、青少年に関する情報交換や意見交換を行い、活動方針等を適宜立て、状況に応じた活動をしている。 月1回以上、支部の男性班の活動として19時から21時まで支部内の夜間街頭補導を行い、非行・被害行為の発見と防止に努めている。 新居浜市少年補導委員協議会主催の総会・研修大会に積極的に参加している。 金栄支部では、支部長として支部員を束ね、支部の活動が円滑に進むように良くサポートしており、重要な役割を果たしている。
高橋 一男	西条地区青少年健全 育成協議会 西条小学校安全 ボランティア (西条市)	毎朝、交通量の多い西条小学校区の通学路の安全を見守り、登校してくる西条小学校の児童に「おはよう」「いってらっしゃい」の声を掛け、児童の安全を支えている。おかげでここ数年、登下校時の児童の交通事故は0である。子どもたちは、高橋さんの温かい声掛けであいさつのよくできる子どもたちに育っている。

●青少年団体活動 団体の部

団体名（所在地）	代 表 者	功 績 の 概 要
野村青年団 （西予市）	河野 誠司	昭和 25 年に結成され、野村地域を中心に地域貢献活動や地域づくり、若者の交流の場づくりなどの活動を行っている。 1995 年には結成 50 周年を記念し、東北地方を中心に活躍しているみちのくプロレスと連携し野村地域でプロレス興行を開催した。それから定期的にプロレス興行を開催し、7 回開催（直近では 2023 年 3 月）。この興行は 2018 年の「平成 30 年 7 月豪雨災害」のチャリティマッチとして開催し、売り上げの一部と来場された方の募金を西予市に寄付した。 毎年 8 月には野村地域の盆踊り大会を地域づくり組織や観光協会などと連携し、野村青年団が主催で開催している。人口減少や高齢化によって参加する団体は減少しているが、野村地域特有の楽曲を使用する踊りもあり地域文化継承の一助となっている。

●善行青少年の部

氏 名	団体名（所在地）	功 績 の 概 要
林 紗羅	古三津子ども虎舞教室 （松山市）	毎月 2 回、第 2・第 4 土曜日の 19 時 30 分から宮前公民館の大会議室で練習を行っている。 虎舞の踊りだけでなく、構成および歴史についても学習し、虎舞について理解を深めている。 日頃の練習時からリーダーとして会員の面倒をよく見てくれ、指導者の手助けをしてくれるなど頼もしい人材である。先輩から教わったことを次へ引き継いでいくため、自分自身が手本となるように挨拶や態度にも気をつけている。異なる年齢の集まりで、ともに成長していける活動が続いていくよう頑張っている。
二宮 そら	双海町 ジュニアリーダー会 高校生大学生統括部長 （伊予市）	「双海町こども教室」の運営補助、プログラムの企画立案、実施などをメインにボランティア活動を実施しており、地域イベントや高齢者福祉施設のイベントの手伝いなど、積極的に活動の幅を広げ、個々の成長や地域貢献を目的に活動している。 ここ数年では、高校生大学生統括部長に就任し、陰ながら会長、副会長をサポートし、ミーティング時には率先して事業のアイデア出しを行っている。休暇中には地元へ帰省し、率先して活動に参加し、青少年育成活動に熱意をもって取り組んでいる。

大会宣言

次代を担う青少年の育成は、社会全体で一体的に取り組むべき課題であり、県、市町、関係団体等が、それぞれの役割及び責任を果たしつつ、相互に協力しながら、地域が一体となった青少年の非行・被害防止のための取組を進めることが必要である。

このため、「青少年の非行・被害防止県民大会」を開催するにあたり、県民総ぐるみによる青少年の非行・被害防止及び健全育成運動を一層強力に推進していくため、次のことを宣言する。

- 一、 SNSの利用に起因する青少年の犯罪被害を防止するため、フィルタリング利用率向上のための取組をはじめ、青少年のインターネットを適切に活用する能力の向上やペアレンタルコントロールによる対応の推進に向けて啓発する。
- 一、 青少年が、「JKビジネス」等に係る被害を受けることがないように、被害事例や相談窓口、被害に遭わないための対処法等について広報啓発を行う。
- 一、 有害図書類等の販売、貸付等について、「愛媛県青少年保護条例」に基づく対策の徹底を図るとともに、20歳未満の者に対する酒類・たばこの販売等の防止に向けた取組を推進する。
- 一、 大麻、覚醒剤、危険ドラッグ等の危険性や有害性に関する正しい知識の普及を積極的に推進するなど、薬物乱用の防止に関する指導の充実を図るとともに、治療・社会復帰の支援等に努めるなど、再乱用防止対策の充実強化を図る。
- 一、 オレオレ詐欺を始めとする特殊詐欺に誘い込む手口等についての情報発信や注意喚起に努めるなど、青少年を特殊詐欺に加担させないための取組を推進する。
- 一、 再非行の防止の重要性について県民の理解を深め、地域における相談機関相互の連携を強化し、青少年や保護者・家庭からの相談に対し、よりの確に対応する。
- 一、 重大ないじめ・暴力行為等の問題行動の被害に遭っている青少年が、一人で悩み苦しむことのないよう、早期把握や解明に努め、問題行動を起こした少年に対する適切な処遇、指導監督の推進及び再発の防止を図る。

令和6年7月24日

青少年の非行・被害防止県民大会

愛媛の未来をひらく少年の主張大会

9月7日（土）、愛媛県生涯学習センター 県民小劇場（松山市上野町）にて、令和6年度「愛媛の未来をひらく少年の主張大会」（共催：県、県青少年育成協議会、県教育委員会、独立行政法人国立青少年教育振興機構）を開催しました。46回目を迎えた今年度も県内各地から1,934名もの中学生の皆さんに応募をいただき、その中から予備審査により選ばれた10名が家族や社会の中で興味を持ったことなどについて発表し、いずれも聴衆の心に響くすばらしい発表でした。

今大会の最優秀賞は愛媛県立松山盲学校2年の正岡匠さん、優秀賞は西条市立西条東中学校3年の松本莉緒さん、今治明德中学校3年の山口美桜さんの2名が受賞されました。最優秀賞の正岡さんは、11月に東京で開催された「少年の主張全国大会～わたしの主張 2024～」に愛媛県代表として推薦しました。

◎審査結果

最優秀賞	未来の自分へ	愛媛県立松山盲学校	2年	正岡 匠
	広い視野を持って	西条市立西条東中学校	3年	松本 莉緒
優秀賞 (五十音順)	自分を好きになれますように	今治明德中学校	3年	山口 美桜
	未来を守る力	今治明德中学校	3年	秋山 透和子
優良賞 (五十音順)	僕たちの使命	愛南町立御荘中学校	3年	猪野 結人
	「孤独の輪から抜けた私」	新居浜市立川東中学校	3年	井上 はるひ
	命のバトン	新居浜市立中萩中学校	3年	岩崎 葵
	大事にしたい、人とのつながり	今治市立伯方中学校	1年	中野 由依子
	誰もがありのままに生きるために	西条市立西条東中学校	3年	廣瀬 うた
	優しい世界に向かって	新居浜市立西中学校	2年	三ッ井百々子

最優秀賞

未来の自分へ

愛媛県立松山盲学校 2年 正岡 匠

過去は変えられないけど未来は変えられる。このメッセージを一年前の自分に伝えたい。地元の中学校では、人間関係がうまくいかなかった。親しい友達もいたけれど、夏休みを境に学校に行けなくなった。明確な理由はあるけれど、ここで言えるほど、まだ自分の中で過去のことはなっていない。

行けなくなった僕に父は、始めは、厳しく「行きなさい。」と注意した。

そんな父に申し訳ないと思いながらも、僕はずっと寝て過ごし、学校に行っていないことを父にばれないようにひっそりと生活していた。

そんな僕を見て、母が理由を聞いてくれたので、僕は、クラスメイトとうまくいかないことを伝えた。

僕の気持ちを大切に考えてくれた母が、小学六年生から教育相談に通っていた松山盲学校への転校を勧めてくれた。

「このまま地元の中学校に通い続けることは、人生が終わっちゃうな。」と思っていたから、転校することはうれしかった。教育相談に来始めたころは、松山盲学校に通うことになったら、家族と離れて、寄宿舎で生活するので大変そうだなと思っていたけれど、人生が終わるほどの大変さはないだろうと、あっさり覚悟が決まった。

そして、ぼくは令和五年十月に松山盲学校に来た。来てよかったことは、授業が一对一で行われるところだ。地元の小学校と中学校では、一クラス三十人ぐらいの教室で、分からなくても先生に話し掛けられなくて、内容が分からないまま進んでしまうから困っていた。特に数学の負の数が分かりづらくて、中学校の最初のところでつまづいてしまった。「あー詰んでしまった」と思った。でも、盲学校に来て数学の先生が一年生の最初から教えてくれたので詰まなくて済んだ。

勉強は、嫌いじゃない。

苦手な数学も、お金の計算につながるし、本を読むことは自分の知らなかった世界を知るきっかけになることも、今までの経験で分かっている。勉強をすることは将来の自分の可能性を広げるということも、十分に知っている。だから、今の僕は、勉強を一生懸命したいという気持ちが強い。毎日学校に通えなかった経験があるから、勉強ができる毎日がうれしいし、分からないことをすぐに聞ける環境がありがたい。

松山盲学校に来る前に一番心配だった寄宿舎での生活は思ったほど大変ではなかった。

家族と離れて暮らすようになって、最初は困ることはあったけど今では、全然大丈夫。むしろ家族のことが心配だ。けがをしてないか、ご飯を食べているか、さみしくないか、週末会えるのを待ち遠しく思っている。

僕は、松山盲学校に来て、半年で目標を二つ達成した。

一つ目は友達を作ること。

松山盲学校で出会った石丸君と薬師寺さんは、僕をととてもやさしく迎え入れてくれた。昨年、中学部の三人で行った三月の校外学習は、きっと、僕の中学校生活での一番の思い出になるに違いない。

二つめは、コミュニケーション力を身に付けること。

基本的に恥ずかしがり屋の僕だが、少人数の学校では、目立たずにいることが難しい。先輩二人が卒業したら、とたんに、中学部の代表になってしまった。体育がある日は、職員室に行って体育連絡を聞かなければいけないし、授業で指名されない日なんてない。

少年の主張大会に出場だなんて、前の学校にいたころの自分が聞いたらどんな顔をするだろうか。

盲学校に来て、僕はきっと変わった。明るくなったし、よく笑うようになった。前向きにもなったし、学校にも毎日通っている。

僕の将来は、きっと明るいに違いない！と言えるほどの自信はないが、最後に、過去は変えられないけど未来は変えられる。このメッセージを今の自分に送りたい。

優秀賞

広い視野をもって

西条市立西条東中学校 3年 松本 莉緒

私は両目とも右側の視野が欠損している。頭の手術の後遺症だ。右目の欠損のほうが広く、半分以上が見えない。だが、私は機械をつけているわけでも、目に見える大きな傷跡があるわけでもない。だから、周りのほとんどの人たちは、私の両目の「視野欠損」という「障がい」のことを知らない。

小学三年の四月、私は頭の手術のためにしばらく入院した。復帰初日、担任の先生が「莉緒さんは右側が見えにくいので、みんな、気をつけてあげてね。」と言った。友達の「ふーん」という反応。「そんなもんだらうな。」と思ったことを覚えている。

初めのころは、視野欠損の不安から慎重に行動したが、そのうちに私は右側が見えにくいことに慣れていった。そんなある日、授業中、右後ろからプリントが回されてきた。私は「莉緒ちゃん。」と声を掛けられるまでまったく気づかなかった。その友達がなにかを言ったわけでもないが、「プリントを回しても、無視するいやな奴。」と思われたのではないかと気になり、ひどく落ち込んだ。私は相手に迷惑をかけることがだんだん怖くなっていった。そして、プリントの受け渡しするときにはしっかり相手を見るようにした。廊下での行動も慎重にした。

六年生になり、卒業式の練習を行っていた時のことだ。式場への入退場は、二列でペースを合わせて歩く。しかし、右側を歩いている人がよく見えず、歩調がずれた。隣の人から「ちゃんとペースを合わせて歩いて！」と言われたので、それを直すためにちらちらと隣を見ながら歩いた。すると、今度は先生から「隣を見ずに前を向いて歩きなさい！」と注意された。どうしたらよいのかわからなくなった。周りの友達が「大事な式なのに、練習をまじめにしないやつ」と思っているかもしれない、という思いが膨らみ、それは余計に私を傷つけた。周りの人からはほとんど気にされないような私の「小さな障がい」は、私の大きな不安の原因となり、「小さくない障がい」になってしまった。

中学校入学にも大きな不安を覚えた私と母は、小学校の担任の先生に相談したところ、中学校の事前見学の日をお願いして下さった。中学校の保健室で、担任になる先生と学年主任の先生と出会った。母は私の状況を話し、「座席を黒板に向かって左の方にしてほしい」ことなどをお願いした。その後、先生は私を教室に連れて行って、自分の座席からきちんと黒板が見えるかの確認をして下さった。来てよかった。ここには、私の視野の状況を気にかけてくれている人がいる。ここならきっと大丈夫。中学校では、もう少し肩の力を抜いていこうと思えた。そして、入学式の入退場。私は胸を張って堂々と歩いた。

あれから二年。私は「安心な生活」を送っている。頼れる人もたくさんできた。中学三年生の今、高校入試だけでなく、卒業によってこの慣れた環境が変わってしまうことへの不安ももちろんある。でも、自分で自分のことをしっかり理解し、どんな助けが欲しいかを自分からまわりに伝えていけば、自分の手で「安心な生活」を作ることができる、と今の私は知っている。「今度もきっと大丈夫」と思える自分がいる。

ふりかえれば、何か自分にとってマイナスに感じるものが起こったとき、不安で周りを信用できなかった私。私のこの「小さな障がい」は、視野欠損を理由に周りの人たちのことを信頼しなかった「自分の心」そのものだったのかもしれない。

「障がい」は自分の「心の中」にある。「ある」と思えば生まれるし、「ない」と思えばなくなる。私はそう思う。だからこそ、たとえ視野が半分だとしても、心の視野は広く持ちたい。見えないところで、周りの人が私にしてくれていることにも気付ける人になりたい。そして、みんながそんなふうに広い視野を持てば、「障がい」の有無にかかわらず、どんな人でも安心して生活ができるような社会になると私は思う。

優秀賞

自分を好きになれますように

今治明德中学校 3年 山口 美桜

あなたは自分のことが好きですか？

私は、日本人の母とイギリス人の父のもと、愛媛県今治市に生まれた。いわゆる「ハーフ」と呼ばれる、日本と海外両方のルーツを持つ子どもである。グローバル化が進んだとはいえ、私が住むのは市内でも人口が少ない島嶼部。島では珍しい私の外見は視線を集めやすく、私は多くの大人に声をかけられながら育った。「ハーフなん？」「お父さんとお母さんはどこの人？」おしゃべり好きだった幼い私は、大人に話しかけられることが嬉しく、注目を集める自分の外見が確かに好きだった。

成長する過程で、環境が変わるたびに私は同じような質問に答え続けていた。もちろん事実以外を答える理由などないので、正直に話す。満足そうな顔をする人、興味を持って話を広げる人。反応は様々だが、共通していたのは、私を差別するために質問しているのではないということだ。彼らの言葉のほとんどには悪意がなく、単純な好奇心だとわかっている。しかし、ふと思ってしまうのだ。初対面の相手の両親の出身地を、一番最初に聞こうと思うかな？と。悪気なんて一切ないであろう言葉に、少しだけでもやっとして傷ついてしまう自分は何なのか。言葉の影で、日本人ではないことをやんわりと強調されているような気がするのはどうしてなのか。それはきっと、外見によって「ハーフ」だと判断され、周囲と自分の間に境界線を引かれたように感じるからだ。実際、姿が見えない電話口では、そんなことを言われたことは一度もない。この事実だけを見ると、私はずっと見た目による「差別」を受けてきたように思える。しかし、相手の言葉に善意や好意を感じる時があるからこそ、「差別」という強い言葉で相手を非難することが、私にはできない。自分の気持ちを消化しきれなかった私は、だんだんと自分のことを好きではなくなっていた。

中学生になった今、私は社会の大きな変化を感じている。実際に、街を歩いていて注目されることもぐんと減った。「ハーフ」という言葉を使わない、「ミックス」や「ダブル」という新しい呼称も生まれた。でも、この呼称によって「ハーフ」の問題は本当に解決されたのだろうか？言葉の影で苦しんできた私たちにとっては、むしろ、耳障りのいい言葉に変えることで、苦しみの表面だけを美化し、なかったことにされている気さえするのだ。私たち当事者はまだ、「善意のルールをかぶった小さな差別」に心をすり減らしている。

どうすればこの現状を知ってもらえるだろう？悩んだ末に私は、十四年間家族以外誰にも話さなかったこの思いを友人に打ち明けてみた。友人は最後まで私の話を聞き、「教えてくれるまでそんなこと思いもよらなかった。知らないと何もできないのって、本当に怖いことだね。」と受け止めてくれた。その姿に私は、はっと気づかされた。人は「知る」ことができて初めて「気づく」ことができる。でも、人が何に苦しみ、何が起きているのかは、外からは簡単には見えない。それならば私が声を上げることで、少しずつ状況は変わっていくかもしれない。

様々な境遇の人が共に生きる社会。誰も皆、それぞれ違う悩みや苦しみを抱えて生きている。では、その見えない悩みは当事者だけが解決すべきものだろうか？そうではないはずだ。「自己責任」として自ら解釈すべき悩みとしてではなく「社会で起こっている問題」として、今一度捉え直してほしい。すべての人と問題を考え、解決策を探せば、着実に未来は変わると私は信じる。苦しい時には声を上げられる。周りはその声を拾うことができる。そんな社会を私は創っていきたい。自分の外見も内面もアイデンティティも、丸ごと好きになれる人が増えることを祈って。私はこれからも、自分の思いを発信し続けていく。

【お知らせ】

令和7年度の青少年関係大会は、下記日程で開催を予定しております。

是非ともご参加いただきますよう、お願いいたします。

○青少年の非行・被害防止県民大会 7月末

○愛媛の未来をひらく少年の主張大会 9月上旬

※両大会とも愛媛県生涯学習センターにて開催予定

※日程は変更となる場合があります